

## テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。  
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

関東学院大学 望月ゼミ A パート

29

部門番号

部門名

その他

テーマ

ファッション

サブテーマ

ブランドファッションかファストファッションか

趣意文

私たちは、ファッションについて興味があり、ゼミナールの論文のテーマでもファッションについて研究しています。そこで、ファッションを大きく二つに別けてブランドファッションが良いのか、ファストファッションがよいのかについて討論したら面白いのではないかという話になりました。

ブランドファッションは値段が高いが、生地も持ちもよいという特徴があります。また、ブランドだと高級なイメージなどがつきやすいと思います。逆に、ファストファッションは、低価格でオシャレが楽しめるが生地がブランドものに比べると薄いなどの特徴があります。そこで、価格は高いが生地がしっかりしているブランドファッションか、低価格でオシャレが楽しめるファストファッションかを討論したいと思います。

## テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 芳賀寛 ゼミ 芳賀寛ゼミ A パート

29

部門番号

部門名

その他

テーマ 地域政策

サブテーマ 愛知・福岡各県内での地域比較

### 趣意文

人々に身近な発展・格差是正について政策発案を行いたいため、地域・地方に着目しました。データに基づいた根拠のある政策提案を目標に、県内の地域間を比較して読み取れる違いや特徴から政策について考察します。比較対象とする地域は発展もしくは衰退している地域を選択します。比較地域を選択するために指標として、データ数・信頼性がある人口の増減率を用い、市区町村を選択しました。人口の増減率と地域の発展・衰退との関係性はあるのかをはじめ、様々な指標から地域に適した政策について考察し、政策の実施結果を推測することに関心を持っています。地域を比較する際、発展している地域と衰退している地域をどのような定義から判断するか。それぞれの地域から求められている政策目的はどのようなものかということに問題意識を持っています。

討論したいポイントは地域の政策内容と政策の根拠、具体的に地域において発展・衰退とは何か、発展のためにどのようなことを求めているかについてです。アプローチ方法は、人口の増減率から地域を選択・比較して特徴や違いを読み取り、政策を発案します。政策を発案する際に、選択した各地域は何を求めているか、どのような状況の実現が地域の発展を示すのかという点を意識して考案していきます。そして、発案した政策を実施した場合の推測を行い、より現実的・具体的な政策にします。地域政策の研究を通して、地域政策において重要な指標や考慮すること、共通点など学習したこと、今後の課題をまとめとします。

## テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 林 ゼミ 排水マネジメント

パート

29

部門番号

部門名

環境経済論

テーマ 発展途上国の環境問題

サブテーマ インドネシアの排水処理におけるコミュニティとステークホルダーの連携

趣意文

2015年に、衛生環境の未整備が世界経済に与えた経済損失は2,229億ドルにのぼり、2010年の1,825億ドルからわずか5年で400億ドル以上も増加したとされている。地域別に経済的コストの総額を見ると、衛生環境の未整備が最も大きな経済的負担になっているのはアジア太平洋地域であり、そのコストは金額にして2015年の1年間で1,723億ドル、これは世界全体の4分の3以上を占めている。とくにインドネシアはコスト総額で、この地域内でインド、中国、パキスタンに次いで4番目に経済的損失が多く（740億ドル）、衛生環境の未整備が大きな問題になっているといえる。そこで私たちはインドネシアの環境に焦点をあてて、インドネシアの排水処理について研究している。

具体的には、コミュニティが運営する分散型排水処理システムがあるが、コミュニティだけでは解決することができない問題があるため、ステークホルダーと連携して運営している。主に資金、管理、需要に関してコミュニティとステークホルダーが適切に連携できているのか研究をする。



## テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 林 ゼミ 環境教育 パート

29

部門番号

部門名

環境教育

テーマ 環境教育について

サブテーマ 教科として「環境」を取り入れるべきか

### 趣意文

現在、特に開発途上国において問題となっているのが環境問題である。この環境問題に対してインドネシアでは2014年から小学校で南タンゲラン市において「教科『環境』の教材開発と教員の再教育支援プロジェクト」を取り入れている。さらに、2017年からは中学教科「環境」の確立と環境教育の普及支援プロジェクトを推し進めている。

日本では日本環境教育学会創設の翌年の1991年、文部省（当時）は環境教育の普及を図るために『環境教育指導資料（中・高校編）』を、92年には『環境教育指導資料（小学校編）』を刊行した。そこでは環境教育を教科や科目として設定するのではなく、道徳や特別活動を含むすべての教科等で環境に関わる内容を取り上げるようにするという方針が示された。

その一方で、多様な用務を抱えた学校現場においては、文部省の示した「分散型」で環境教育を進めるという方針は実現性を欠いており、環境教育普及のためには時間枠の確保と環境教育を担う専任教員の存在は不可欠という、「環境教育の教科化」に相当する主張も存在した。

今、我が国の学校教育では各教科に環境教育をとけ込ませて行っているとされている。しかし「何を基準にして」とけ込ませるのか、という問いには答えがない。「学習指導要領

## 【中央】林光洋ゼミナール D

を改訂して環境に関する要素を増やした」とされているが、基準＝スタンダードになるものがなければ、十分に期待に応えているものなのか判断がつかない。(中略) 私どもでは今、環境教育は全ての子どもたちが受ける必要がある教育であることから、文科省に「環境科」の設置を改めて提案している。「総合的な学習の時間」もあるが、授業内容が学校の裁量に任されているため、この時間では必ずそして十分に環境に関する授業がなされる保証はない。(諏訪 2014)

こういった環境教育のあり方について議論がなされているが、日本において教科として環境を導入するべきかを討論する。